

平成27年6月10日開催

## 総務常任委員会資料【所管事務調査】

### 新水族博物館の検討状況について

1	設計業務について	.....	1
2	イルカの飼育展示にかかる動向について	.....	3
3	新水族博物館を核とした地域活性化事業について	.....	5



# 1 設計業務について

## (1) 平成 26 年度末に基本設計を完了し、市民に基本設計の内容を説明

### 〔基本設計完了報告会の開催概要〕

- ①日 時 平成 27 年 4 月 25 日（土）13 時 30 分～15 時 40 分
- ②場 所 ユートピアくびき希望館 多目的ホール
- ③来場者数 約 60 人（同時開催の「水族博物館のあゆみ展、ミニ水族館」には約 190 人が来場）
- ④内 容 市担当者による経過説明のあと、基本設計者である(株)日本設計の篠崎 淳氏から基本設計の内容を説明した。その後、来場者から質疑を受け付けた。主な質疑応答は、次のとおり。

主な質問事項	回答要旨
ミュージアムショップが有料ゾーンにあることについて	ショップの売上げは、指定管理者が安定運営していくうえで重要であることから、入館者が必ず通過する出口手前に配置したもの。
車イス利用者などへの配慮について	ユニバーサルデザインに基づく施設とする。3 階へはエスカレーターで移動するが、エレベーターもある。ゆるやかなスロープで下りながら観覧してもらえらる。
3 階から 1 階への展示動線について	自由に観覧できる通路を設けている。例えば、イルカショーの時間に合わせて 3 階に行けるよう補助階段がある。
施設西側にも入口を設けることについて	北西からの強風を踏まえて東側に入口を設置する。入口前の屋根付きの車停めで乗降してもらい、運転手のみ駐車場へ移動してもらうことも可能である。
レストランの収容人数について	グレードやレストラン内の水槽配置数などにより変わるが、現施設の食堂よりも多く確保できる。約 100 席前後と考えている。
地域の活性化について	水族館を生かしたまちづくりが大事である。これから地域の皆さんと一緒に考えていかなければならない。まずは、地元・直江津の方々と一緒に地域が元気になるような方策を考えていきたい。



基本設計完了報告会



水族博物館のあゆみ展・ミニ水族館

(2) 「ペンギンランド」の実施設計に当たり、上田<sup>かずおき</sup>一生氏（ペンギン会議研究員）にアドバイザーを依頼

マゼランペンギンの飼育数が日本一である現在の「ペンギンランド」については、生息環境を再現するなど展示面の磨きをかけることとしている。

実施設計を進める上で、ペンギンの生態及び飼育展示の手法等にかかる専門的な知見が必要であることから、ペンギンの飼育展示の指導等における国内の第一人者である上田一生氏の助言を得ることとした。

ア 上田一生氏のプロフィール

- ・昭和 29 年生（60 歳）、東京都出身 國學院大學文学部史学科卒業、目黒学院高等学校教諭
- ・「ペンギン会議」\*創設（平成 2 年）メンバーの一員。以後、ペンギン会議研究員として活躍。

監修、資料提供したペンギン展示施設（抜粋）

- ・東京都葛西臨海水族園…展示施設新設への資料・情報提供（平成元年）
- ・上越市立水族博物館…「世界のペンギン写真展」開催への資料提供（平成 6 年）
- ・横浜・八景島シーパラダイス…展示施設新設の全体監修、資料・情報提供（平成 5～7 年）
- ・長崎ペンギン水族館…全体監修（平成 9～14 年）、長崎市より「特別功労賞」受賞（平成 15 年）、以降、増設展示の監修・解説に携わる（平成 20～21 年）
- ・しものせき水族館 海響館…全体監修、チリ政府と下関市の協定締結を仲介（平成 20～21 年）

イ 上田氏の考える新水族博物館の「ペンギンランド」のあり方

- ・生息環境の再現を重視する。
- ・新水族博物館の開館時にすべての環境整備を完了する手法ではなく、長期にわたって進化・熟成させていく手法とする。

\*参考

「ペンギン会議」は、全国ネットワークの NGO。動物園や水族館のペンギン飼育担当者を中心に、一般のペンギンファンも参加できる。全国各地の地区会議において、飼育技術やペンギンの生態・生息状況の報告が行われる。その集大成とも言える全国会議が年に 1 回開催される。飼育技術者間の情報交換と飼育環境の質的向上、野生のペンギンの保全、研究活動への支援と推進、ペンギンに関する資料の収集・提供、研究誌「THE PENGUIN」、情報誌「ペンギン情報」の発行などを行う。

## 2 イルカの飼育展示にかかる動向について

### (1) 日本動物園水族館協会（JAZA）の会員資格停止をめぐる経過

- ・平成 26 年 11 月、世界動物園水族館協会（WAZA）理事会が、以下の点で JAZA の会員資格停止を検討しているとの通知を受ける。

#### 通知の内容

- ① WAZA は、追い込み漁による野生イルカの捕獲を正式に否定している。\*<sup>1</sup>
- ② WAZA の懸念について 10 年にわたる JAZA のやり取りと現状を変えるという協約にもかかわらず、実質的な変化がみられない。\*<sup>2</sup>
- ③ WAZA は承認できるイルカの捕獲方法が別に存在するはずであると考えており、また、JAZA がそうした捕獲方法について調査すべきと考えている。現在の「生体捕獲」は、基本的にイルカの捕獲と屠殺方法の差別が不明確である。
- ④ 飼育方法と飼育下での繁殖の向上により、野生個体の捕獲を減らすことができるはずである。
- ⑤ イルカ類の輸出や販売に JAZA 会員が関与することを調査のうえ明確にし、中止すべきである。

\*1 平成 16 年に日本のイルカ追い込み漁と追い込み漁で捕獲されたイルカを日本の水族館が取得することについて非難決議を採択。

\*2 WAZA は JAZA に、食用と水族館用の分離捕獲等を要望（平成 21 年）し、JAZA は要望に基づく対応（食用捕獲との区別等）を実施してきたが、WAZA は了承していない。

- ・上記の通知を受け、JAZA はイルカ問題対策検討特別委員会を設置し、イルカ捕獲方法の改善や WAZA への回答などについて検討を行ってきた。
- ・平成 27 年 4 月 21 日、WAZA 理事会において JAZA の WAZA 会員資格停止が決定され、5 月 21 日までに回答がない場合は WAZA から除名する旨の通知を受ける。

#### 会員資格停止の理由

- 和歌山県の太地町で行われている「追い込み漁」と「追い込み漁で捕獲されたイルカを日本の水族館が入手していること」は、WAZA の倫理・動物福祉規定に違反する。
- また、本件について平成 16 年の非難決議の採択以降、WAZA は JAZA に対して解決を求めてきたが、基本的には何の改善もなされていない。

- ・平成 27 年 5 月 8 日、JAZA は国内の加盟園館に対し、5 月 19 日を期限として WAZA 離脱、WAZA 残留を問う会員投票の実施を通知する。
- ・平成 27 年 5 月 20 日、会員投票の結果を受け、「WAZA に残留する」ことを JAZA 理事会で決議する。

## (2) JAZA 会員投票の結果及び決定事項

### ・投票結果の内訳

有権者数	有効票数	残 留	離 脱
152 園館	142 票	99 票 (69.7%)	43 票 (30.3%)

### ・決定事項

- ①会員園館は、追い込み漁で捕獲されたイルカの入手は行わない。
- ②会員園館は、飼育イルカの繁殖を促進する取り組みを協力して行う。

## (3) 市の今後の対応

- ・水族博物館の役割は、市民をはじめとする大勢の来館者に、水生生物の生態や自然環境保護の必要性、命の大切さを学習する機会とともに、憩いや交流の場を提供することと考える。
- ・イルカは、来館者からの人気が高く、水生生物への親しみや理解を深める重要な展示生物であると考えており、イルカを通年飼育する現在の計画のとおり進めていく。
- ・動物愛護、動物福祉を重視する国際的な動きの中で野生イルカの入手は厳しくなり、水族館における繁殖が必須となる情勢を踏まえ、イルカの入手・繁殖に向けて指定管理者との協議を進めていく。

### [ 参 考 ]

- 1 公益社団法人 日本動物園水族館協会 (JAZA) 住所：東京都台東区台東 4 丁目
  - ①加入団体数：152 園館 (動物園 89・水族館 63、加盟園館のうちイルカ飼育は 34 館)
  - ②組織：総裁／秋篠宮文仁親王殿下、会長／荒井一利 (千葉県鴨川市・鴨川シーワールド 総支配人・館長)、副会長／福田 豊 (東京都日野市・多摩動物公園長)、長谷川修平 (愛知県美浜町・南知多ビーチランド館長)、専務理事／長井建生 (愛知県碧南市・元碧南海浜水族館長)
  - ③活動：希少動物の保護に関する国際動向等の情報収集、飼育技術の研究・技術力向上等
- 2 世界動物園水族館協会 (WAZA) 住所：スイス ヴォー州グラン
  - ①団体数：世界 300 以上の動物園・水族館。国内では、JAZA のほか、上野動物園・多摩動物公園・ふくしま海洋科学館など 8 園館が単独加盟。
  - ②活動：野生動物の保護等に関する情報共有、飼育技術等の調査研究・技術力向上、血統管理 (登録)、加盟国間の円滑な動物交換
  - ③倫理・動物福祉規定 (抜粋)
    - ・WAZA は、野生動物やその他の天然資源の採取に当たっては、国内及び国際法を持続的に遵守するとともに、国際自然保護連合の方針に準拠している必要がある。
    - ・WAZA は、残酷で非選別的な野生動物の捕獲方法に反対する。

### 3 新水族博物館を核とした地域活性化事業について

新水族博物館を核とした地域活性化に向けて、施設周辺エリアの住民、関係団体、商工業者による自主的な取り組みを促進するため、ワークショップの開催や先進地視察等を行う。

#### (1) 検討メンバー

以下の団体から推薦された方々（全体で20人程度を予定）がメンバーとなり、具体的な取り組みや実施時期などの検討を進める。

- ・住民組織（直江津・五智地区 町内会長連絡協議会）
- ・直江津まちづくり活性化協議会
- ・直江津菓子組合
- ・飲食店関係（上越市飲食店組合、直江津食堂組合）
- ・直江津旅館組合
- ・交通・旅行事業者
- ・教育関係（大学、小・中学校）
- ・上越商工会議所（青年部、女性会）
- ・上越市立水族博物館（指定管理者）
- ・事務局：(株)まちづくり上越  
上越市産業振興課、新水族博物館整備課、観光振興課等

#### (2) スケジュール

	実施内容	
4月	・関係課、関係団体との協議	
5月	・各団体から検討メンバーの推薦	
6月	・全体検討会の開催：課題抽出、地域資源の再点検などの実施 ・各ワークショップの実施	検討を進めるとともに、具体的な活動を行っていく予定
7月	・先進地視察	
8月	・水族博物館での来館者アンケート（ニーズ調査）の実施	
9月	・指定管理者との意見交換会	
⋮		

#### (3) 想定されるワークショップのテーマ

- ・まちなか回遊策  
→誘導看板の整備、鉄道・バス事業者との連携企画等
- ・商店街への誘導策  
→クーポンの発行や逸品マップの作成、直江津観光ポータルサイトの開設等
- ・特産品の開発  
→直江津の特色を生かした新商品の開発等

